

1. 件名：福島第一原子力発電所 増設雑固体廃棄物焼却設備の運転状況についての面談
2. 日時：令和4年6月24日（金）15時30分～16時15分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
竹内室長、澁谷企画調査官、松田室長補佐、横山係長、塩唐松係員
大辻室長補佐（テレビ会議システムによる出席）
福島第一原子力規制事務所
廣岡原子力防災専門官
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当2名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、福島第一原子力発電所増設雑固体廃棄物焼却設備の運転状況について、資料に基づき主に以下の説明を受けた。

【飛灰ホッパ内部】

- 6月10日、焼却運転中、飛灰ホッパの内部に水があることを確認したため、焼却運転を停止したこと。
- 飛灰ホッパ内部は灰と水分が攪拌され、泥状になっている様子を確認したこと。
- スプレーノズルの不具合が考えられることから、今後、噴霧試験を行う予定であること。

【二次燃焼機とストーカを繋ぐプレート他の亀裂】

- 6月18日パトロール時に、二次燃焼器とストーカを繋ぐプレートと、ロータリーキルン取合部のシール溶接部の2カ所に亀裂があることを確認したこと。
- 確認時、焼却運転は停止しており、また、亀裂のあった系統内はブローにより負圧維持していることから、外部への放射性物質の漏洩はないと考えられること。
- 今後、現場調査等により原因調査を実施すること。

- 原子力規制庁は、上記説明内容について確認するとともに、今後プレートの亀裂について現場調査等を実施する際には負圧の維持や汚染の漏洩防止等に注意して実施するようコメントした。

- 東電は、上記コメントについて適切に対応する予定である旨回答があった。

6. その他

資料：

- 福島第一原子力発電所 増設雑固体廃棄物焼却設備の運転状況